

発行
平成22年
12月17日
復刊 第75号



発行 者
長野県下伊那農業高校
同 窓 会
TEL(22)5550(代)
FAX(53)0339
編集・発行
同 窓 会 幹 事 会
印刷 龍共印刷(株)

創立90周年記念事業 盛会の内に無事終了!

同窓会の皆様方には、御健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私、この度吉沢政弘会長の後を継いで同窓会長としてお世話になります高九回卒業の岩崎和男であります。いたって未熟者でその器ではありませんが、同窓会発展のために精一杯頑張らせていただきますので同窓会の皆様方の御支援、御協力を心よりお願い申し上げます。又、前吉沢会長様には、長い間同窓会の為に御尽力賜り誠にありがとうございます。

さて、母校は創立九十年の節目を迎えて多くの事業を計画・実行している所であります。本校は大正九



母校創立
九十周年を迎えて

同窓会長 岩崎和男(高9回卒)

年、地域の農業振興と農業後継者の育成を願って開校され、今日迄に一万七千有余名の卒業生を輩出し、地域社会を始め全国各地で活躍しております事、誠に喜ばしく思っております。母校の歴史を振り返りますと農場やグラウンドを広げた草創期の先輩、戦時下で勤勞奉仕に汗を流した先輩、地域の若者に学びの機会を与えた十七分校の教育、中国との国際理解教育、そして今日の時代に沿った新しい教育等々、下農には豊かな教育実践と営みがありました。更に今年度は体育館が新装となり、施設設備が充実し素晴らしい環境の下で生徒達が勉学に励む事が出来るようになり、同窓会の皆様始め関係各位に衷心より感謝を申し上げます。尚、少子化が急速に進む中、高校の再編が進められ一層魅力ある学校づくりが求められる時代となりましたが、開校以来連続と続いている教育方針の「質実剛健」、「誠実堪能」、「積極真摯」を堅持し、地域の厚い信頼と要望に応えるため更に魅力ある農業高校として発展され

る事を願っています。

母校の周辺は大きく変貌し、在学中と比べると隔世の感がありますが、校歌の一節にもあります「農は我らの命かな」の精神を大切にしていただきたいものだと考えます。同窓会も女子の会員が四千五百名を超えるようになり、女子の同窓生で組織している稲穂会の充実を図りながら母校の教育に御支援をしていかなくてはいけないと思っておりますので、同窓生の各位におかれましては今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。



現在実行委員の皆様により細部にわたって計画をされています。多くの皆様方の御参加を願うところで御座います。

九月二十三日に盛大かつ厳粛に行われ、各位に心より御礼申し上げます。

終わりに、会報であります稲丘時報の配布につきましても一人でも多くの会員に届きますよう心よりお願い申し上げます。同窓会員の御健勝と母校の発展を御祈念申し上げ御挨拶いたします。



受付風景

みなさん お世話になりました

前同窓会長 吉澤 政 弘 (高5回卒)



錦秋の十月二十三日、母校は、創立九十周年を迎え記念祝賀式典が開催されました。心からお慶び申し上げます。

さて私事去る五月二十九日、平成二十二年度同窓会代議員会において、会長を退任させて頂きました。平成十三年に副会長就任以来九年間、特に平成十九年から、身の程も弁えず、一期三年間は会長の席を穢させて頂きました。この間、同窓会員の皆様方、母校の学校長はじめ諸先生方には一方ならぬご支援ご厚情を賜りここに篤く感謝し、お礼を申しあげます。殊に同窓会の顧問役員の方々には、常に大所高所から助言、激励をいただき、また同窓会校内幹事の先生方には幹事長を先頭に一致協力して、会の運営に精励して頂き、お陰様で無事任を果たすことが出来ました。下農の同

窓会は、校内幹事の先生方の努力のお陰で立派に運営されており改めて敬意を表する次第であります。

正副会長在任中を振り返ってみますと、同窓会にとつて平成十七年は忘れられない年でした。少

子化による高校改革の中心事業である高校再編整備の対象校候補に飯田長姫高校と共に白羽の矢を立てられ、一時は九十周年記念の準備どころでは有りませんでした。直ちに臨時理事会を招集し反対決議文作成、代議員会で満場一致で採択、長

姫高校同窓会役員と協議飯伊選出県議と下農長姫役員との協議、「下農の存続を求める要請書」を森田先輩の案内で、県教委、県議会の各会派をまわり提出陳情等々。地元自治体対策は、岩崎現会長が。と打つ手は尽くしました。八月二十九日南信州広域連合から県教委へ出された代案を正式に県教委が推進委員会へ提示され、この段階で、母校の統合だけは一先ず免れることが出来たのです。県の原

案は、飯田長姫と下農を統合にし、総合学科の学校を設立しようとしていたので

す。この「総合学科」については、絶対ダメという今牧、嶋岡両先生の一致した見解で有ります。この御高見を承った上は、同窓会の使命として迷わず母校を単独農業高校として守り抜くことと有ります。平成三十二年は母校も創立百周年になります。目指す百周年記念が、単独農業高校として祝うことが出来ることを切望して止みません。

もう一つ高校改革プラン推進委員会を傍聴する中で記憶に残る思い出があります。委員会は、月二回のペースで飯伊地区から北へ順次協議が進んで、上伊那地区

創立九十周年に寄せて

学校長 齋藤 秀雄



スーパードラマだった今年の夏もノドもと過ぎれば：すっかり冬の気配が漂ってまいりました。

会員の皆様には日頃より母校と後輩のために物心両面にわたりご支援を賜って

が終わった時点で、上伊那の委員から動議が出た、上下伊那が一校ずつ減らしているのに諏訪地区は現状維持では、納得出来ないと。そこで諏訪地区も一校減らすことになり、岡谷東高校を候補にあげて来ました。ところが岡谷東高校の同窓会の署名運動の猛反対にあつて、学校を特定出来ず、委員会は終了しました。私はこの様子をまのあたりにして「同窓会パワー」を実感した次第であります。

終わりにになりましたが、母校の益々の発展と、同窓会員の御活躍御健勝を、ご祈念申し上げ、退任の挨拶といたします。

おりますこと、厚く御礼申し上げます。

はじめに過日十月二十三日飯田文化会館で母校創立九十周年記念式典を、引き続きグランビニョオオミヤで祝賀会を厳粛かつ盛会のうちに行行できましたことをご報告申し上げます。当日は晴天にも恵まれ大勢の会員の皆様にもご参加いただき、感謝申し上げます。ところで、創立八十周年から九十周年までの十年間



を、振り返って見たとき、学校要覧等に記述されていない重要なことを三つ述べさせていただきます。

一つ目は、平成十四年のアクセス道路（通称アップルロード）の全面開通です。開通と同時に学校周囲の環境が一変しました。道路沿いに様々な商店が連ね賑やかになりました。下農は、「まち」にある学校になりました。名古熊区のご尽力により、無原則な出店を制限し、生徒が健全に学べる街づくりをしていただいておりますこと、感謝の気持ち一杯です。

二つ目は、平成十七年度にはじまった高校再編の問題です。平成二十五年に飯田新校が開校します。多くは述べませんが、少子化が進行する中で、飯伊地区全体の視点から、将来を見据える必要があります。

三つ目は、農場実習地の借地問題です。平成二十二年度末に借地の返還手続きが整いました。今年には地主の皆様のご理解により従来

に近い形で栽培させていたいただきました。今後の実習地の再編や新たな確保が課題となっております。

さて、十一月の稲丘祭OB展に出品いただいた中にいくつか下農にご寄贈いただいたものがございます。その中の一つに、初代校長、芝原彦十先生の書「瑞気満堂（ずいきまんどう）」の扁額があります。おめでたい空気が満ち満ちしているところ——といった意味でしようか。九十三翁、稲丘道人と記されています。

九十周年の節目が、次の百周年へのステップであることは周知のことでございます。温故知新（ふるきを訪ねて新しきを知る）の機会になりました。引き続き、職員一同農業教育を中核に据え、地域に貢献し、信頼される学校づくりに努める所存でございます。

最後に、会員各位の益々のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶といたし

九十年を振り返って

事務局長(教頭) 遠山 善治(高26回卒)



十月二十三日、飯田文化会館において創立九十周年記念式典が、盛大に挙行されましたことに、卒業生をはじめ関係された多くの皆さんに感謝と御礼を申し上げます。

本校は大正時代のはじめ、地域の振興、発展を農学校設立に求めたところから胎動が始まり、大正九年に四八名の新入生によって、稲井ヶ丘の地に開校いたしました。その後、県立に移管されて長野県下伊那農学校と校名を変え、戦後の学制によって長野県下伊那農業高等学校となり、新たな理念と理想のもとに出発いたしました。時代とともに教育内容は変遷しましたが、創立以来、今日まで一貫して農を命とし、実習を重視する教育は変わることなく受け継がれてきました。本校の九十年間を振り返りますと、戦前は「開拓」「勤労」の教育であるとも

いえます。草創期では生徒自ら開墾をして農場を広げ、そしてグラウンドの拡張工事をおこない、当時の生徒の尊い汗の結晶が今日の下農教育の基盤をつくり上げました。そして、戦後はこの地域の若者に教育の場を与えた一七にも及ぶ分校の教育、生徒自ら作り上げた教室、他校に先駆けて海外との交流事業、資格取得指導、地域を教材にした数多くの連携事業などこの下農には豊かな教育実践が営々と続いております。

本校は創立以来十年ごとに周年行事をおこなって、その時々々の教育内容の見直しを図りながら、その時代の産業・社会構造の変化に主体的に対応して、さまざまな取り組みをおこなってきました。現在は地域の特色、要望をふまえて、アグリサービスク、農業機械科、園芸クリエイト科、食品化学科の四学科を設置

しいずれも地域との連携を図って特色ある専門の学習を展開しているところです。今日の少子化に伴い生徒減少期を迎え、これからの高校のあり方、魅力ある学校づくりが求められる時代となりました。今後の社会を考えるキーワードに「環境」「食料」「エネルギー」といわれています。これら従来から多角的に体験をとおして学習をおこなっている本校の存在は益々大きくなるものと思えます。地域に必要な高校としての存在意義を見いだすべく努力していきたいと思えます。今後ともご支援、ご指導をいただきますようお願い申し上げます。



生徒発表「下伊那農業高校の歩み」

記念式典報告

係長 長谷川 真澄(高5回卒)



創立九十周年記念事業にむけて、平成十七年一月十七日の準備会の開催を皮切りに六回の実行委員会を重ね、大綱・細部にわたる実施案が練り上げられてきた。記念式典当日は天候にも恵まれ、飯田文化会館大ホールを会場に、早朝より慌ただしく係ごとの準備が進められ、式典開始を待った。

飯田下伊那地区選出の県会議員・飯田市長・県関係・学校関係の皆様を来賓にお迎えし、理事・代議員・支会長をはじめとする多くの同窓会員、PTA会員、在校生、教職員が一堂に会し、式典が挙行された。式典の次第は以下の通りである。

- 一 開式の辞
- 一 国歌斉唱
- 一 記念事業経過報告
- 一 実行委員長挨拶
- 一 学校長式辞
- 一 教育委員会挨拶



来賓祝辞
来賓紹介・祝電披露
感謝状贈呈
生徒代表挨拶
校歌斉唱
閉式の辞

なお、御祝辞をいただいた方は、森田恒雄県会議員・牧野光朗飯田市長・本校と二十年来の交流を行う中国江蘇省蘇州農業職業技術学院 解 鵬氏であった。また、感謝状贈呈者は、九十年を機会に高額寄付をいただいた木下工業(株)会長 木下長志氏・新渡戸稲造博士墨書扁額を寄贈いただいた吉川建設(株)社長 吉川光國氏である。

本式典が盛会裏に終了できましたことは、ひとえに同窓会員の皆様・式典に参加された皆様お一人お一人と感謝いたしております。次の周年行事にむけ、母校のさらなる発展をお祈りするとともに、引き続き飯伊地区における人材育成の中核であらんことを願い、報告いたします。

創立九十周年

記念講演会開催

係長 後藤 政喜 (高6回卒)

講師 俳優 永島 敏行氏
演題 『あなたが未来をひらく』



「農は「土は」「我等のいのちかな」の歌詞に関心をもち、これぞ農業を志す人達の礎だと感心していました。

昨年十二月の会議で、数名の候補者から、永島敏行氏に絞り、交渉を進めることとして、その後快諾を得て今回の記念講演の講師としてお願いすることにしました。

今後益々活躍されて、新しい農業の在り方、進め方に一石を投げ続けてくれるものと思いました。特に生徒諸君にこの講演がこれからの農業に対しての指針の参考になったのではないかと思います。

講演の要旨です。

永島敏行氏は千葉県出身の五十三歳、野球選手として活躍。立派な体格で飾り気のない俳優さんの印象を受けました。農業に強い関心を持ち、控室で記念資料に目を通せられ、校歌にあ

農業やコミュニケーションの大切さを強張して『皆さんには可能性が多くあります。大変なことでも一歩踏み出せば道は開ける』と呼びかけた。秋田での米の栽培に携わる中で、食や農



永島敏行氏

業生産地の重要性を認識して、農業の素晴らしさ、大切さを伝えることができると気付きました。七年前に全国各地の生産者が都心

で農産物を直接販売できる「青空市場」を開設して生産者と消費者の交流の場を造りあげたこと。都会で水が飲めるのは農地のおかげ。都心では新鮮な野菜を買えるところが減ってきた。便利の一方で、不便さもたくさんあるなどの事例を交えて、多様な価値観や個性の存在を強調して「ピンチはチャンス」の考えや、積極的な交流を促し農業も、アイデア次第では新たな産業

九十周年を終えて

係長 倉澤 好一 (高10回卒)



が生まれる。例えば「下農移動販売」みたいな企画を実行してみたい。など提案し、結びに「皆さんには可能性がたくさんある。大変そうでも一歩踏み出せば何かが始まる。批判されるかも知れどそれも大事。歩めば道は開ける」と優しく呼びかけ、「自分自身これからも、いろいろな挑戦していく。役者も農業もめっちゃくちゃ楽しいからね」と締めくくりました。

います。

学校は九十周年となり卒業後五十年余りを経て思い出すことは少ない、文化祭や収穫祭そして運動会のデコレーション造り、校庭の拡張で大きなイチヨウの木を切ってそりを作り、石碑を運搬した事など思い出します。

在学中にした学校協同組合設立の事が頭をよぎる、二年生の時からだった、他校に遅れていた学協を我校にもという機運が高まり、中山先生の指導で設立準備委員会を発足させ、先進校の視察や関連の会議から情報を得た、委員会は毎日のように会をもち定款づくりには時間と労力が必要だった、原案が出来ればガリ版

が生まれる。例えば「下農移動販売」みたいな企画を実行してみたい。など提案し、結びに「皆さんには可能性がたくさんある。大変そうでも一歩踏み出せば何かが始まる。批判されるかも知れどそれも大事。歩めば道は開ける」と優しく呼びかけ、「自分自身これからも、いろいろな挑戦していく。役者も農業もめっちゃくちゃ楽しいからね」と締めくくりました。



総合司会をして下さった関口郷子さん(アナウンサー)

刷りで全校生に計る、各教室での説明、全体集会も数多く開いた、修正が出ればその都度同じことの繰り返しであった。

設立総会のあとは発足の準備、開店へとあわただしく進んだことを思い出します。

学校協同組合には、学校の沿革には直接関係ないかも知れないが生徒活動の一つであり何らかの形で記録に残っても良いのではないかと思えます。



祝 長野県下伊那農業高等学校 創立90周年記念祝賀会

ハンドベルを通しての絆

代表 坂巻京子(高14回卒)



創立九十周年誠におめでとございます。記念行事へ向けての検討をしている中女子の参加者をどうしたら増やせるかと考えたのが、ハンドベルの演奏をしようでした。

希望者を募ったところ、三十名余の方が出て来て下さいました。昨年七月末に初会合を開き上郷の市原美智子先生をお願いし、月一回の練習でベルの持ち方から振り方、そして曲選びと皆さん初めて持つベルの感触を味わいながら、楽しんで練習に励んできました。全員揃うという事はありませんでしたが、今年の八月からは月二回の練習となり発表の日も近づいてきたという緊張感からか、真剣さが出てきて、やっとうまくなってきたなと思える様な演奏が出来るようになりました。大平先生が二回に渡り差し入れしながら激励に来て下さり元気づけられ

ました。八回卒から三十三回卒と幅広い方達の集まりであつても、又、初めてお逢いする方達に抱わず一つのハンドベルを通して親しくなり心通わせながら、中休みをする時には、それぞれ持ち寄った漬物やりん

ご等を食べながらお話が出来る事、嬉しく思います。九十周年の祝賀会に演奏出来る事に誇りを持ち、感動を与えるような演奏をしたいなあと思張りました。当日は緊張しすぎて上がってしまいました皆さん満足顔でした。この人達が中心となって稲穂会を盛り上げていくってくれること間違い無しと確信致して居ります。



第56回稲丘祭

「羅針盤のないOB作品展」

多彩に七十点展示

伊原耕作(高8回卒)



稲井が丘に秋を告げると同時に、創立九十周年記念事業という特別な稲丘祭での「羅針盤のないOB作品展」をテーマに十一月六日〜七日に開かれた。絵画・書・写真・陶芸・木彫り・生け花を多くのOBの皆様より出展を戴き連日にぎわいました。初代校長芝原彦十先生の額(茂木立好則氏蔵)展示。平成十八年に文部科学大臣より地域芸術文化功労賞を受賞され、昨年喜寿を迎えられました。陶芸家の水野英男さんの「山なみ」大口壺の展示。

やはり昨年喜寿を迎えられた、後世まで使える「浄瑠璃人形」(あやつり人形)の、長野県内でも数少ない人形を彫る技術を持った職人の、牧本寿亮さんによるカラクリ人形の首製作工程と表情を変える人形の展示。



巻京子、勝野芳美さんの作品展示。写真では、三回卒の佐々木賢実さんの「銘桜(駒つなぎの桜) 樹下の田植・稲刈り」他、森下恒雄、牧野巨博、林英男、下平和史、原東彦、橋爪基夫、小島勝人、森本徳助、加藤栄優、沢柳吉朗、米山賢昭、鈴木治男、福島紀雄、勝野芳美、矢澤和弘、堀本政子、北原忠志、伊原耕作(敬称略)五十一作品それぞれに個性あふれた力作の展示が出来ました。最後に今回の作品展にご協力を頂いた多くの皆様にご場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

同窓生の活躍。

活動報告

平成二十一年秋の叙勲

旭日双光章を受章して

岩崎和男(高9回卒)

同窓生の皆様方には、益々御健勝にて御活躍の事とお喜び申し上げます。さて不肖私こと、平成二十一年度の秋の叙勲に際しまして、凶らずも地方自治功勞と言つこと



旭日双光章の受章の榮に浴することが出来ました。平成二十一年十一月十一日には皇居に参内いたしました。春秋の間にて、天皇陛下の拝謁を賜りまして陛下から親しくねぎらいと励ましの言葉をいただきました事は、生涯忘れることの出来ない感激の極みでございました。

この度の受章にあたりましては、これ偏に永年に亘りましてそれぞれのお立場から御指導下さった先輩各位を始め、多くの同窓生の皆様方の暖かいご支援と御協力の賜でありまして心より感謝申し上げます。さて私は下伊那農業高校第九回の卒業生であります。卒業と同時に家庭の都合で

家業の農業に従事をし、専業農家として今日まで頑張つて参りました。今顧みますといろいろな農業経営に、又、団体、公職等に携わつて来ました。楽しい事、又苦しい事等も多く有り、走馬灯のごとく脳裏に浮かんで来ます。卒業と同時に地元の四工クラブに入会をいたしました。そこで地元の下農同窓生始め多くの郡下の同窓生と仲間が出来ると同時に四工活動を活発に行つた記憶が有り、当時水稲、養蚕の中心の経営の中に養豚経営を取り入れまして、養豚について母校の生徒達の前で三十分間位話した事も思い出として残つております。

卒業間もない二・三年は楽しく農業に携わつたものでした。

その後夏秋きゅうり栽培、エノキ栽培等経営の中に取入れ、養蚕から果樹へそして昭和四十七年に宝酒造KKの開発したやまびこほんしめじの栽培を仲間三人と県下第一号として始め、県下でも大きく伸び一大産業となつております。私の現在はこれのしめじ中心の経営をしているところです。又、その間消防団活動にも情熱を燃やし、地元の消防団長もさせていただきました。そして農協青年部の活動にも力を入れた思い出もあります。

今度の受章は、上郷町議六年、合併後の飯田市議十六年、計二十二年間、又その間市議会議長として勤める事が出来たためかと思つておりますが、これは私一人で出来たのではなく、お力添えを頂いた多くの皆様方と共に頂いた章であり、衷心より感謝申し上げます。今後は、この受章を終生の名誉として健康に留意し、稲丘精神を忘れる事なく地域のために微力をつくして参りたいと思ひます。最後になりますが同窓生各位のご健勝と御活躍を御祈念申し上げます。ありがとうございます。

神稲支会現況報告

支会長 菅沼 優(高7回卒)

本年は母校創立九十周年の年で十月二十三日に盛況に記念式典が開催されましたことに同慶に存じています。今回広報係より支会活動の現況報告の依頼がありましたが七十号でも報告致しましたので簡単にお伝えします。神稲支会現在約二百六十名の会員で年一回の定期総会、会員の親睦をはかるためのマレットゴルフ大会、それに本会同窓会開催のゴルフ大会への参加な

どが主な事業です。運営は正副会長、正副事務局長、それに地域から十五名の役員を選出いただき、会費の徴収(年会費五百円)や稲丘時報の配布など行つていきます。又、女性部も三人の役員を中心に独自の事業に取り組んでいます。当支会は歴代の会長さんを中心に諸先輩の皆さんが母校に対する思いと地域での稲丘健児の活躍の願いが強く昭和三十年代に始まつた母校の施設



のころから支会活動の充実に力を入れ会員名簿の作成に始まり定期総会の開催、会則の制定などに取り組んでまいり以来休むことなく定期総会は開かれその都度母校から担当職員の出席を頂いて学校の近況など詳しく聞いております。又、これも昭和三十

年代から始まつた同窓会の親睦球技大会には野球大会に始まり、ソフトボール大会、そして現在のゴルフ大会には毎年欠かさず参加し成績も各競技とも優勝、準優勝も各経験があります。何より定期総会、親睦マレットゴルフ大会終了後年代を忘れて話し、語り合い最後に皆で校歌や応援歌を歌い一時を楽しく過ごすことで毎回出席者も多くなつていきます。支会活動の継続は事務局体制の充実にあると考えています。終わりに、一万七千人余の卒業生を輩出した母校が新しい時代に対応した発展と百周年にむけて更なる同窓会の活動を期待して現況報告といたします。

稲穂会活動

女性のパワーを一層強化に!

稲穂会会長 熊谷 正子 (高19回卒)



稲穂会(女子部)の皆様には、年々ご理解をいただきご協力いただきました。ありがとうございます。

本年度は下農創立九十周年に当たり、十月には記念式典が行われることから、稲穂会もこの記念行事の一端として、第五回マレットゴルフ大会を盛大にやろうと計画したところ、大勢の皆様に参加をいただき、六



- 優 勝 岩下 恒子 (21回卒)
- 準優勝 坂巻 京子 (14回卒)
- 三位 清水 静子 (14回卒)

ブルービー賞 林 富貴子 (25回卒)
ホールインワン賞 塩澤 紀美 (21回卒)
二月には「かわらんべ」と「かぶちゃん農園」の見学会を行いました。六十人と云う大勢の参加をいただき、誠にありがとうございました。かわらんべでは葉脈の「しおり」作りを体験させていただき、皆さん夢中で良い作品作りに取り組んでおられました。昼食は

かぶちゃん農園の食堂でバイキング料理をいただき、クラスメイト同志で楽しい会食ができました。今後も皆様の素直なご意見をいただきながら、参加して良かったと思える様な行事を計画して参りたいと思います。一人一人が口コミで輪を広げていただき、女性のパワーで稲穂会を一層盛り上げていただきたいと思ひます。

第十九回

同窓会親善ゴルフ大会

第十九回大会事務局長

安野 正和 (高21回卒)



第一回大会を平成四年に開催して以来、本年で十九回を迎えました同窓会親善ゴルフ大会が、六月二十二日下條村の飯田カントリークラブで行われました。梅雨に入り雨の中での開催を予測していましたが、日頃の「何とやら...」が良かったためか天候に恵まれスタートすることが出来ました。十九回の今大会は参加人数二二〇名を超え、過去の大会を振り返っても二番目に多い参加者を迎え、長野

この事から早朝七時よりのスタートとなり、コンディションがまだ整わない各々の様でしたが、そこは経験と長年培った勘の良さなのか実にうまくスタートしているようでしたがやはり、いつもの大きな声が随所で聞かれていました。今回の大会に多くの参加者を頂く中、遠距離からの参加者も多く、その中のお一人は、八十歳を超えて参加され、いつまでもお元気で母校を想う気持ちを強く感ぜられました。コースの途中には恒例のチャリティーホールが設けられ、多くの皆様か

らご協力を頂き母校へ贈呈することができました。プレーの進行も二二〇名余りの参加者から時間内の終了が危ぶまれましたが、心配とは裏腹に四時半頃には全て終了し、表彰式を定刻通り始めることが出来ました。表彰式には多くの皆様より景品を頂き、個人優勝、地区別対抗、飛賞、レディス賞、特別賞など多くの賞を皆さんに渡すことが出来盛大な表彰式となりました。式の中で同窓会長、教頭先生よりご挨拶を頂きました。お話の中に、「長年多くの同窓生が参加し現在まで続いているこの大会こそ、夫々の地域の中で貢献し、活躍している同窓生皆さんの地域を想う気持ちがこの大会も継続している。」とお話がありました。恒

表彰式の終わりに、恒例の旧校歌、応援歌の斉唱を行い、いつもの応援団長の号令のもと、速やかに執り行われました。表彰式を無事終了した後は、夫々地域へ帰り交友を深めているようでした。終わりになりますが、今大会には多くの皆様方をはじめ、学校の先生方、実行委員会の皆様方のご協力、ご支援を賜り無事終了することが出来ましたことに深く感謝申し上げます。

下農同窓会ゴルフ大会成績

個人の部				
優 勝	岡庭 直久	高30回	山本支会	
準優勝	早川 雅司	高31回	松尾支会	
3 位	大澤 孝夫	高29回	山本支会	
4 位	藪原 博司	高19回	上片桐支会	
5 位	下平 吾郎	高15回	竜丘支会	
6 位	寺沢 誠	高17回	山吹支会	
7 位	菅間 成美	高12回	上郷支会	
8 位	宮嶋 秀行	高12回	千代支会	
9 位	林 健二	高7回	山吹支会	
10 位	松島 伸幸	高14回	上郷支会	

支会対抗の部				
優 勝	松尾支会			
準優勝	伊賀良支会			
3 位	上郷支会			
4 位	上久堅・千代支会			
5 位	山吹支会			



会 務 報 告

幹事長 大澤 勲 (高22回卒)



猛暑が続いた夏から秋を通りこして一転して寒くなってきました。しかしながら同窓会員の皆さまにおかれましては、実りの秋を迎え益々ご健勝にてご多忙の毎日をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

政府の環太平洋連携協定(TPP)をめぐる政策は第一次産業である農業にとって壊滅的な大打撃を受けるこの大きな問題を押し進めようとしております。このことは農業高校に於いても大きな影響を受けることと懸念し本校存続の危機でもありと、心配しておるところでございます。

角夫、監事関島武俊、顧問吉沢政弘前会長にそれぞれ就任いただき松尾副会長、林監事は退任され、それ以外の役員の皆様にはご留任頂く原案を五月に開催致しました理事・代議員会で提案ご承認をいただきました。

下伊那農業高等学校にとつて節目の年である創立九十周年記念事業を控え同窓会として実行委員会を中心に実施に向けての取り組みを行いました。

事業の内容をご報告致します。

五月二十九日(土)に理事・代議員会をグランビュートオミヤで開催しました。理事会に於いては大平(閻魔)先生から「この出席者の数はあまりにも少ない幹事長はどう考える」との質問があり私は「誠に悲しい事態であります」答弁させて頂いていただきました。

代議員会に於いては、平成二十一年度事業・決算の報告行い承認を頂きました。続いて役員改選について選考委員長の今牧英世先生よりご提案頂き承認いた

きました。

次に平成二十二年事業計画・予算案についてご提案頂き承認いただきました。次に平成二十一年度卒業生から新理事に松島敬介君、新代議員に原章郎君を提案頂き承認いただきました。支会活動であります各支会毎例年総会を開いて頂いておりますが、昨年度は東京・上郷・市役所・伊賀良・松尾・神稲・座光寺・川

路・阿智・山吹・竜江の各支会で開催され、会長始め事務局から校内幹事が出向いております。その中で年一回発行される時報が届かないと言う声を耳に致しますが、是非各支会で組織の立て直しをして頂き、全会員の皆さまに時報が届きますことを願うものであります。又、百周年に向け更なる支会の発展を願っております。



平成22年5月29日 代議員会

創立九十周年記念事業についてもその計画が提示され特に支会での参加のとりまとめなどお願いがありました。少子化に伴う高校改革プランは尚いっそう深刻な問題を投げかけています。それに拍車をかけるようにTPPが益々深刻な問題を投げかけ県教育委員会においては平成二十五年には高校改



平成22年9月に改築を終えた新第1体育館

変についての意見があり当然のように下伊那農業高等学校も廃止又は統合の危機になる可能性も心配されま



す。同窓生の皆様におかれましては、母校の発展のためにより一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

平成21年度 決 算 書

平成22年5月29日 提 案

平成22年5月29日 承 認

1 歳入総額	2,427,136円
2 歳出総額	1,513,855円
3 差引残額	913,281円

1 歳入の部

(単位：円)

科 目	予 算			収 入 済 額	比 較 増 減	備 考
	当 初 予 算 額	補 正	計			
入 会 金	1,272,000	0	1,272,000	1,272,000	0	8000円×159名
雑 収 入 (利 子)	1,272	0	1,272	2,408	1,136	定期繰入、利息
繰 越 金	840,728	0	840,728	840,728	0	
終 身 会 費	312,000	0	312,000	312,000	0	2000円×156名
合 計	2,426,000	0	2,426,000	2,427,136	1,136	

2 歳出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			支 出 済 額	予 算 残 額	備 考
	当 初 予 算 額	補 正・流 用 額	計			
1 事務費	430,000	0	430,000	180,535	249,465	
(1) 旅 費	135,000		135,000	101,115	33,885	支会総会等の旅費
(2) 事 務 費	60,000		60,000	3,916	56,084	手数料他
(3) 通 信 費	20,000		20,000	8,310	11,690	郵送料・電話代
(4) 消 耗 品 費	35,000		35,000	13,474	21,526	印刷用紙他
(5) 負 担 金	30,000		30,000	24,000	6,000	地区同窓会負担金等
(6) 正 副 会 長 交 際 費	150,000		150,000	29,720	120,280	各種会議参加費等
2 会議費	260,000	0	260,000	227,748	32,252	
(1) 役 員 会 費	30,000		30,000	19,890	10,110	役員会等
(2) 代 議 員 会 費	170,000		170,000	167,358	2,642	代議員会
(3) 幹 事 会 費	60,000		60,000	40,500	19,500	校内幹事会会議費
3 事業費	1,400,000	0	1,400,000	999,299	400,701	
(1) 稲 穂 会 費	120,000		120,000	107,490	12,510	活動費・総会費
(2) 事 業 推 進 費	370,000		370,000	132,200	237,800	支会総会の参加
(3) 稲 丘 時 報 発 行 費	250,000		250,000	241,500	8,500	稲丘時報発行費
(4) 同 窓 会 林 管 理 費	10,000		10,000	6,568	3,432	同窓会林間伐等管理
(5) 新 正 会 員 歓 迎 費	150,000		150,000	150,000	0	校歌等CD購入用積立て
(6) 稲 丘 会 事 業 寄 付 金	200,000		200,000	200,000	0	(財) 稲丘会
(7) 親 善 大 会 費	100,000		100,000	79,961	20,039	親善ゴルフ
(8) 研 究 費	200,000		200,000	81,580	118,420	創立90周年事業準備会
4 雑支出	170,000	0	170,000	72,925	97,075	
(1) 慶 弔 費	120,000	▲5000	115,000	20,925	94,075	祝儀・香典・弔電
(2) 転退職職員記念品費	50,000	5000	55,000	52,000	3,000	餞別
(3) 雑 費	0		0		0	
5 予備費	166,000	0	166,000	33,348	132,652	
(1) 予 備 費	166,000		166,000	33,348	132,652	
合 計	2,426,000	0	2,426,000	1,513,855	912,145	

平成二十一年度末 会員の異動

一、同窓会員

二十二年三月卒業により正会員になった者 一五六名
 四月 入学により準会員になった者 一六〇名
 正会員数 一七、四三三名
 旧制 二四八九名
 高校 一四九四四名
 内 男子 一〇、三六九名
 (二十一年度 六九名)
 女子 四五四八名
 (二十一年度 八七名)

二、職員の異動

「転出」

木下 浩子 (国語)
 菅沼 節子 (社会)
 北村 毅 (社会)
 吉川 蒼子 (数学)
 ジョナサン・ハーディ (英語)
 中村真太郎 (音楽)
 今村みはる (家庭)
 伊藤 佳香 (家庭)
 青木 千春 (農業)
 工藤 和俊 (農業)
 鎌倉 秋子 (事務長)
 林 康子 (行政)
 山田 保子 (行政)
 今村 祐樹 (行政)
 藪原 英幸 (行政)

「転入」

佐々木里香 (国語)
 御園生詔二 (社会)
 西牧 綾 (英語)
 伊澤 美佳 (音楽)

塩澤 弘子 (家庭)
 田中永里名 (家庭)
 芹部 和馬 (農業)
 北原 淳子 (農業)
 島 知勢子 (農業)
 成田 潔繁 (事務長)
 下岡かよ子 (行政)
 早野 一美 (行政)
 竹折 正司 (行政)

会員の訃報

(事務局に連絡があった会員のみ掲載
 謹んでご冥福を
 お祈り申し上げます
 (敬称略))

中平 金實(十二回) 大島
 大石 勝俊(二十三回) 大島
 大島 元博(十九回) 上郷
 関口 功(旧第二二二回) 鼎
 鈴木 昭五(二回) 鼎
 伊藤 文雄(十五回) 鼎
 山田 耕司(三十二回) 鼎
 川手 浪治(旧二十三回) 松尾
 松尾 伝三(旧六回) 龍江
 林 龍雄(旧二十四回) 龍江
 滝沢 貞光(旧二十二回) 下久堅
 遠山 景政(旧二十四回) 平岡
 林 円香(五十九回) 山吹
 白上 教男(四回) 旦那

下農は今 (在校生の活躍)

農ク全国大会へ

第六十回茨城大会

各種県大会 家畜審査競技 最優秀賞受賞

平成二十二年三月 アグリサービス科卒業

川手 愛 純 (高62回卒)

私は、今年度初めて農業クラブの家畜審査競技に出場しました。家畜審査競技とは、雌牛と子牛各四頭の体の部位を見比べたり、触り比べたりして順位をつける、簡単に言うとなりの目利きをする競技です。しかも自分の感覚、センスで判断をしなければならぬので難しい競技でもあります。

毎年、三年生が競技に出場し

ており、今年度は生産流通コースと一緒に畜産を専攻している三人で出場しました。出場すると言っても牛に關しての知識はほとんど無く、事前学習として家畜審査の資料を先生に頂き、各自勉強し、前日には境先生に実際に学校の牛を使って、見るポイントなどを教えて頂きました。

家畜審査当日、会場には長野県の農業高校から参加した人達



が集まっていたにもかかわらず緊張しました。でも始まってみると不思議に緊張も解け、積極的に牛に触ったりしながら行うことができました。

競技の結果は、なんと最優秀賞を頂く事ができました。まさか私とれるとは思っていません。本当にびっくりしました。

した。最優秀賞が決まったと同時に長野県の代表として全国大会の出場も決定しました。その事に対してとても緊張しましたがこういう賞を頂くことができるとてもうれしかったです。

全国大会は十月に開催ということで十月までの二ヶ月間の準備期間は先生方に色々なところへ連れて行って頂き、様々な事を学びました。根羽市場・木曾市場を見学、共進会への参加、そして地元の農家さんの元へ行き、沢山の牛を見せて頂きました。どこへ行っても地域の方が応援して下さい、色々な知識を教えてくださいました。

十分な準備をして迎えた全国大会は、緊張しながらも自分の力を信じて精一杯頑張ることができました。結果は：。やはり全国大会。上には上の力を持った人がたくさんいました。いい結果を残すことができて悔しい気持ちもありましたが、全国大会という大舞台に出場することで、様々な出会いがあり、いい刺激を受け、色々な経験ができ、本当に楽しかったです。

全国大会に出場するにあたって、境先生・寺澤先生をはじめとする諸先生方、周囲の友達や地域の方々など多くの方にお世話になりました。私が全国大会に出場することができたのもこうした周りの支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。

農ク全国大会へ

第六十一回北海道大会

農業情報処理競技 優秀賞受賞

平成二十一年入学 アグリサービス科

二年 櫻井 猛

全国大会の出場が決まったのは七月三日の県大会でした。ただなんとなく班活で問題をやっていっただけに顧問の先生が、「櫻井。お前、県大会出場な。」と突然言われて、「ちゃんとしてるのだろうか。」とどうせだめだろう。とか思いながらやっていったのがまさか、優秀賞で全国大会に出場するとは思っていませんでした。

張は少なくなぜかやる気と自身がありました。会場へ行くときさらにやる気が出てきました。農業情報処理競技では百一人が出場していました。「みんなできそうな雰囲気だなあ」と思いながらパソコンの接続をしていました。

その一週間後くらいからまた練習し始め、北海道へ行く日がやってきました。移動中ずつと頭の中で情報処理に関することを延々と繰り返しやっています。ホテルへ着いて練習してました。本番が明日と思うと「今さら練習やって意味あるのか。」と感じ始めました。その後勉強

してよいよ競技が始まりました。始まったと同時に周りからすごい勢いでキーボードを打つ音がしました。時間が経つにつれて「自分が一番おそいんじゃないか。」と不安が出てきました。そんなことを思いながらやっていると実技試験が終了しました。今度は筆記試験です。筆記試験は順調に進みましたが。全ての試験が終わった途端

張で全然集中できず、その夜県ごと集まって夕食を探していても自分は大会のことで頭がいっぱいで夕食どころではなく、北海道の夜を楽しめませんでした。不安と緊張を抱えたまま一日を終えました。大会当日の朝、前日とは違い不安や緊張



に疲れがとっと出てきました。全力を出しましたが、「どうせ賞は無理だろうな。」と思いつつその日を終わりました。

結果発表の日が来ました。ほとんどあきらめながら結果を聞ききました。最優秀賞は閉会式で口頭で発表がありました。自分

最初で最後の

インターハイ

平成二十年入学 園芸クリエイト科

三年 小林 将 樹

「インターハイ出場」は高校生活三年間の一番の目標でした。保育園の年長から今まで器械体操を続けてきた私にとって、高体連最大の大会であり、スポーツをしている高校生にとって一度は出場してみたいと思う「インターハイ」は、私も高校生になつたら絶対出場したいと思う大会でした。

しかし、インターハイに出場するには県大会で団体一位もしくは個人総合でベスト2以内に入らなければならず、高校一・二年生の時は共に個人総合三位で終わりと悔しい思いをしました。インターハイという大会は人生のうち三回しか出場するチャンスはありません。「チャンスはあと一回、来年こそは自分が出場するんだ。」という強い気持ちで一年間、目標に向かって練習に励みました。

県大会当日、周りには強い他

の名前は出て来ませんでした。「やっぱりな。」と思いつつその後結果の紙を見るとなんと優秀賞の中に自分の名前がありました。見た時は実感できませんでした。僕の出場した競技は今年で最後だったので賞をとれずうれしかったです。



顧問の田中滋康先生(右・高53回卒)と

しかし、インターハイに出場することが最大の目標であつても、出場すれば終わりではなく、出場するからには一人でも多くの人に勝ちたいと思ひ、練習に励みました。

そして全国大会当日。県大会一位で通過といつても上には上があるという言葉通り、上手な人ばかりでした。しかし、わざわざ長野県から応援に来てくださった担任の先生、そして自分のためにも自分の力を出しきった試合にしようと思ひました。

練習中、腰を痛めてしまいましたが、大会が終わるまで痛みにたえることができました。演技の方も、鉄棒の着地以外ほぼ完璧な演技をすることができ、満足いく内容でした。

インターハイに出場してみても、出場できてよかったと思う反面、上手な人たちを見て悔しいとも思ひました。全国の選手たちを見てこれからの練習へとながる良い刺激をたくさん得ることができました。出場できてよかったです。応援してくださった方々ありがとうございました。

校の選手がいる、自分にとって最後のチャンスという大きなプレッシャー、冬にケガをしてしまい満足いく練習ができなかったという不安がありました。インターハイに出場できなかったら体操を続けてきた意味がないと思えるほど大事な大会だったので、絶対インターハイに行くぞという強い気持ちで大会に臨みました。



その結果、個人総合一位という文句なしの結果で予選を通過することができました。し

平成21年度(22年3月卒業)の進路状況

卒業生数		人数	比率	計	合計	アグリサービス	農業機械	園芸クリエイト	食品化学
男子	女子								
69人	87人			156	41	37	41	37	
合計	156人			69	6	37	15	11	
				87	35	0	26	26	
				12	7		4	1	
				15	3		7	5	
就職者				0					
男子	15	管内	27	17.3%	0				
女子	16	県内	0	0%	0				
小計	31	県外	3	1.9%	2	2			
比率	19.9%	公務員	1	0.6%	1	1			
		自営	0	0%	0				
進学者				14	1	4	3	6	
男子	53	四大	16	10.3%	2	1		1	
女子	69	短大	39	25%	8	1	5	1	
小計	122	県農大等	5	3.2%	31	13	8	10	
比率	78.2%	専修学校等	62	39.8%	5		5		
					26	3	2	3	
					36	16	11	9	
未定	3				1				
比率	1.9%				2	1		1	

進路状況

平成21年度(平成22年3月卒業)

卒業生の進路状況

進路指導部長 大平 泰 嗣

新規卒業者の就職を巡っては、その厳しさから「就職氷河期の再来」などと喧伝されている昨今ですが、本校現三年生の就職に

関しては年度当初の私の予想を良い意味で裏切り、かなり順調に推移して来ています。来春の卒業予定者一九四名(第三学年

のみ五クラス)中五十六名が就職希望ですが、十二月上旬の時点で内定率は九十八%に達しています。その要因としては、当事者側の危機意識、県高校就職活動支援員制度、企業への各種優遇支援策、ハローワークとの連携などが考えられますが、現三年生の進路状況については別の機会に譲ることとし、以下今春の卒業生の進路概況について触れます。

まず、就職について。就職希望者の数が三十二名と記録的に少なかった。一回目の採用試験で不採用となった生徒が八名(不採用率二十五%)に上り厳しさを改めて痛感したが最終的には三十一名が正規の社員・職員として採用されるに至った。九割が地元企業であり、県外へ出た者は三名にとどまった。

次に進学について。反面進学希望者が増加し、八割近くに達した。進学先分野は多方面に渡り、比較的難関のみ五クラス(中五十六名が就職希望ですが、十二月上旬の時点で内定率は九十八%に達しています。その要因としては、当事者側の危機意識、県高校就職活動支援員制度、企業への各種優遇支援策、ハローワークとの連携などが考えられますが、現三年生の進路状況については別の機会に譲ることとし、以下今春の卒業生の進路概況について触れます。

次に進学について。反面進学希望者が増加し、八割近くに達した。進学先分野は多方面に渡り、比較的難関のみ五クラス(中五十六名が就職希望ですが、十二月上旬の時点で内定率は九十八%に達しています。その要因としては、当事者側の危機意識、県高校就職活動支援員制度、企業への各種優遇支援策、ハローワークとの連携などが考えられますが、現三年生の進路状況については別の機会に譲ることとし、以下今春の卒業生の進路概況について触れます。

進学 4年制大学

新潟(農)、長野(社会福祉)、松本(人間健康)、帝京2(医療技術2)、立正2(社会福祉2)、日本福祉2(社会福祉・福祉経営)、麻布(生命環境科学)、星城(経営)、名古屋造形(造形)、名古屋経済(人間生活科学)、大同(工)、中部(応用生物)、花園(文)

短期大学

飯田女子21(家政13・看護4・幼児教育4)、上田女子(総合文化)、東京農工大短期大学部4(生物生産技術2・栄養2)、高山自動車4(自動車工学4)、東京文化(生活)、名古屋経営(総合ビジネス)、名古屋文理大短期大学部(食物栄養)、愛知学泉(生活デザイン総合)、中

京(健康栄養)、中日本自動車(自動車工学)、岐阜保健(看護)、一宮女子(幼児教育)、湘北(総合ビジネス)

専門学校等

長野県農業大学校4(総合農学2・果樹実科1・南信実科1)、愛知県農業大学校(施設野菜)、調理・製菓(12)、看護・医療(6)、自動車整備(7)、スポーツトレーナー・インストラクター(5)、コンピュータ・IT(4)、動物・ペット(3)、園芸・フラワー(3)、介護・福祉(3)、美容(3)、医療事務(3)、デザイン・イラストまんが(3)、声優・ダンス(2)、公務員・消防(2)、保育、電気、ホテル、ブライダル、音響、楽器製作

就職 管内

飯田広域消防、みなみ信州農業協同組合、天恵製菓(2)、旭松食品、飯田城、大木屋、オムロン飯田、お菓子のシアワセド、カムチップ、かぶちゃん農園、喜久水酒造、グラビアジャパン、KOA匠の里、コーケン香料、シルクホテル中田製糸、シチズン平和時計、信菱電機、津具屋製菓、殿岡温泉湯元湯～眠、夏目光学、日進精機、ネパールランド、はと錦、卑弥呼カンパニー、屋神グランドホテル天心、マイハウス社湯多利の里伊那華、三星ダイヤモンド工業

県外

吉祥寺セントラルクリニック、日野自動車、新日本製鐵名古屋製鐵所

編集後記

本年も、無事「第七十五号稲丘時報」を発行する運びとなりました。これも偏に、同窓会長の岩崎様を始め寄稿に快くご協力いただきました同窓会員、準会員の皆様、写真のご提供をいただきました堀本写真館様のお陰と感謝いたしております。この場をお借りしてお礼申し上げます。有り難うございました。

本号は、下伊那農業高等学校創立九十周年記念事業特集ということで、例年よりも紙面を2ページ増やし、九十周年記念事業に関わる部分をカラー刷りとさせていただきます。九十年という長い歴史に思いを馳せていただけると幸いです。

稲丘時報係

